

**【平成30年度】**

**地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点  
整備交付金事業に係る効果検証**

令和元年6月  
八代市

— 目 次 —

■地方創生推進交付金事業

海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト ……1

八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業 ……8

■地方創生拠点整備交付金事業

コミュニティビジネスによるしごと創生・地域活性化プロジェクト ……15

■事業概要・内部検証

1 事業名	海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト【事業期間：H28～R2年度】
2 総合戦略での主な位置付け	基本目標2: 人をひきつけ、人が集う、活気ある“やつしろ” 1. 交流人口の拡大 (2) 世界に打ち出す観光業の展開
3 事業の背景・目的	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「DMOやつしろ」は平成28年4月に設立され3年が経過するが、観光地経営に必要な経営ノウハウを持つ人材の継続的な確保及び人材育成が課題である。</li> <li>・近年、海外クルーズ船が八代港に寄港しているものの、本市や県南地域の観光地としてのブランド力が弱く、寄港効果の取り込みが十分行えていない。</li> <li>・海外クルーズ船の船客等を対象としたランド社意向ヒアリング等を踏まえ、今後、体験型観光や歴史文化及び地域の食などの地域資源を磨き上げ、体験・体感してもらうための仕組みづくりが必要である。</li> <li>・本市は多くの体育施設を有し、各種スポーツ大会や国内外からの合宿利用客が増加傾向にある。そこで、市体育施設等の能力を最大限に活用した長期滞在の合宿や新たな大規模スポーツ大会の誘致に向けた取り組みにも着手しているところであり、観光振興事業とあわせて取り組みを推進し、交流人口の拡大を図りたい。</li> <li>・熊本地震に伴う風評被害等により宿泊者数が激減するなどの観光産業に影響がでている。</li> </ul> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外クルーズ船等で訪れる国内外からの観光客をターゲットに、八代固有の歴史・文化を活かして、「DMOやつしろ」を核とする官民協働による観光地づくりを進め、交流人口の拡大と経済効果発現を目指す。</li> <li>・加えて、日本一の生産量を誇るトマトや晩白柚、い草等の農産物をはじめとする地域特産品のプロモーション等に取り組むことにより、農林水産物や加工品等の消費拡大・流通促進、また商品開発等を推進し、観光産業及び食関連産業の活性化と雇用の創出を目指す。</li> </ul>
4 事業の概要 (H28～R2年度)	<p>①DMOやつしろ機能強化事業</p> <p>DMOやつしろを担う専門的人材や後継人材の育成、マーケティング等の基礎調査の実施、観光ガイドやツアー造成の一役を担うランドオペレーター（旅行中の案内や交通手段の手配を行う者）等の養成を行う。また、熊本地震からの再生に向け観光事業者支援を行う。</p> <p>②大型クルーズ船等インバウンド事業</p> <p>八代城跡周辺や日奈久温泉を中心に、八代ならではの和のまちなみ空間整備を行うとともに、食・農・文化・スポーツ等の様々な分野と連携した体験型観光の開発や観光客の周遊性を高めるための多言語による情報発信（表示・ガイドブックやSNS・スマートフォン）等に取り組む。また、クルーズ船社等へのツアーの提案やツアーに参加しない乗客・クルーを対象に中心市街地等との交通アクセスの強化を行い、イベントへの参加や買物・食事等による消費拡大を図る。</p> <p>③八代市・氷川町・芦北町ブランド事業(シトラスブランディング事業)</p> <p>3市町は、晩白柚やデコボン、夏ミカン等柑橘類の園芸農業が盛んな地域であり、農林水産省が推進する「食と農の景勝地」の認定を目指した取組を推進する。プロモーション活動を進めながら、「ここでしか味わえない体験と味」をテーマに戦略計画を策定し、晩白柚風呂（日奈久温泉）やデコボン・晩白柚アロマオイルクリームづくり体験、特産品やお土産の開発等、官・民および周辺地域と協働で集客に取り組む。</p> <p>④フードバレー流通推進事業</p> <p>国内の大都市圏（東京・大阪・福岡等）や海外での販路開拓・拡大、6次産業化や商品開発等を推進するため、物産展や展示会、商談会等への出展、国内外の消費者に八代産農林水産物の安全性と美味しさをアピールする事業者への支援等を行う。特に海外展開については、台湾での活動を軸に、友好都市である基隆市における観光物産展の開催や食品見本市への出展をとおして、販路開拓の取り組みを推進するとともに、産地としての知名度向上を図ることで観光客の誘致に繋げる。</p>

5 交付金を充当する  
経費内容  
(H30年度計画)

**①DMOやつしろ機能強化事業 29,587千円**

DMOやつしろの自立化に向け、地域の観光や物産振興を担い、リードする人材の確保と自前で稼ぐ組織となるための観光商品販売を開始するとともに、農産物の販路拡大を目指し、専門アドバイザーによるコーディネート等を実施する。

【実施主体:八代市・DMOやつしろ】

- ・専門人材の活用(観光専門人材、6次化・流通・海外アドバイザー、海外展開サポート等)

【実施主体:八代市・DMOやつしろ】

- ・観光専門人材の育成教育システム(高校・短大との連携)
- ・重点エリアモニターツアー等

**②大型クルーズ船等インバウンド事業(ソフト事業) 69,121千円**

重点エリアの環境を整え、外国人旅行者を受け入れながら工夫や改善を図る。新たな観光資源開発の終了年度として、PRツール作成やプロモーションを実施(観光フード都市としての認知度を確立)。また、大型クルーズ船プレミアムバスツアー等の造成、市内飲食店等多言語掲示を完了する。

【実施主体:DMOやつしろ】

- ・八代城周辺、妙見宮周辺(お堀舟巡りキャンペーン等)
- ・既存ブランド強化(きなっせやつしろキャンペーン等)
- ・地域資源の開発及び商品化支援(体験観光商品の開発助成)
- ・インバウンド対策(県内プレミアムツアー、周遊バス運行、国内外プロモーション等)

【実施主体:八代市】

- ・スポーツツーリズム推進事業(招致アドバイザーの活用)

**②-1 大型クルーズ船等インバウンド事業(ハード事業) 20,000千円**

- ・城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業

【実施主体:DMOやつしろ】

重点エリアにおける和のまち並みに整備する民間への設備補助(本町アーケード周辺における整備)

**③八代市・氷川町・芦北町ブランド事業 17,576千円(うち八代市10,898千円)**

戦略プランに基づいた事業や食べ歩き・農業体験ツアーなど、鉄道、自家用車などによる観光ルートを造成。また、外国人観光客の誘客を目指し、多言語ガイドブック作成などを実施するとともに、香港での晩白柚の認知度向上と定番化に向けてフェア及びプロモーションを実施する。

【実施主体:シトラス観光圏推進協議会】

- ・海外等への映像発信(SNS等)
- ・魅力発信パンフレットや動画の制作

【実施主体:熊本県やつしろ晩白柚ブランド推進協議会】

- ・イオンフードアルチザン活動(イオン香港での観光フード展)

【事業主体:芦北町】

- ・芦北産農林水産物等PR事業(芦北町内での食のイベント開催)

**④フードバレー流通推進事業 13,526千円**

国内外への販路開拓・拡大、八代産品の知名度向上の取り組みを支援し、地域の牽引役となる事業者等の育成を図る。また、海外においては、台湾でのフェア開催や展示会出展等を通して、バイヤーとの商談機会を提供するとともに、観光客の誘致に向けて、特産品や観光情報等の魅力発信に取り組む。

【実施主体:八代市】

- ・台湾プロモーション事業(観光フード展の開催および展示会等への出展)
- ・八代産農林水産物等PR事業(県外・海外への販路開拓・拡大に取り組む事業者等の育成支援)
- ・リーファーコンテナ利用支援(八代港利用による農林水産物等の輸出促進を目的とした補助)

6 平成30年度実績額		121,598 (千円)							
7 本事業における重要業績評価指標	指標名		事業開始時点	H28	H29	H30	R1	R2	
	観光客入込数(人)	目標値	2,475,653	2,429,653	2,616,653	2,668,653	2,770,653	2,805,653	
		実績値	2,475,653	2,215,463	2,846,679	2,534,812			
	外国人観光客数(人)	目標値	6,686	3,986	10,586	13,286	15,786	16,786	
		実績値	6,686	4,406	4,755	4,533			
	観光消費額(千円)	目標値	12,367,175	12,173,517	13,114,319	13,379,020	13,894,747	14,071,206	
実績値		12,367,175	9,920,171	14,474,475	13,407,689				
8 事業実績	<p><b>①DMOやつしる機能強化事業 29,587千円</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DMO会員研修会の開催「売れるパッケージの作り方」「OTA活用セミナー」「インバウンド対策セミナー」など</li> <li>・外部人材等の活用(フードバレー関連アドバイザー):3部門・5名</li> <li>・外部人材等の活用(海外展開サポート):セミナー・ワークショップ開催、バイヤー招聘、香港飲食店八代フェア開催、通訳・翻訳</li> <li>・マーケティングの実施 「キャリアバックWi-Fiアクセス調査」「来訪者動向調査(定点調査)」「ランド社意向ヒアリング」「宿泊クーポン利用者アンケート」「香港ブロッガー調査」など</li> </ul> <p><b>②大型クルーズ船等インバウンド事業(ソフト事業) 60,733千円</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八代城跡お堀舟めぐり体験キャンペーン(宿泊施設へ体験クーポンの配付)</li> <li>・八代妙見祭多言語案内システム繁体字対応</li> <li>・大型海外クルーズ船実態調査(再掲)</li> <li>・きなっせやつしる宿泊キャンペーンの実施(宿泊誘致活動)</li> <li>・くまモンファニチャースタンプラリーの実施</li> <li>・体験観光商品開発支援</li> <li>・「路線バスで行くやつしる散策ガイド」発刊</li> </ul> <p><b>②-1大型クルーズ船等インバウンド事業(ハード事業) 7,724千円</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城下町和のまち並み空間整備事業(本町商店街、日奈久温泉街)</li> </ul> <p><b>③八代市・氷川町・芦北町ブランド事業 10,756千円</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シトラス観光圏の魅力発信パンフレット制作(10,000部)</li> <li>・肥薩おれんじ鉄道とのタイアップPRの実施(シトラススーツ、パンフレットの配布)</li> <li>・シトラス周遊ロードの開発(バスツアー造成)</li> <li>・シトラス関連飲食事業者モニターツアー及び講演会、意見交換会の実施</li> <li>・シトラスブランディングPR動画の制作・配信(市町村HPやYoutubeなど)</li> <li>・イオンストアーズ香港(12店舗)での晩白柚フェア開催、プロモーションの実施</li> </ul> <p><b>④フードバレー流通推進事業 12,798千円</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FOOD TAIPEI 2018への八代ブース出展(4事業者)</li> <li>・台湾基隆市におけるフェア開催</li> <li>・八代産農林水産物等PR事業補助(12事業者)</li> <li>・リーファーコンテナ利用補助(1事業者)</li> </ul>								
	9 事業の地方創生への効果 (凡例は内閣府調査を準用)	○	①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)						
		○	②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)						
		○	③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取り組みが前進・改善したとみなせる場合)						
○		④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)							

10 成果・課題

**【成果】**

**①DMOやつしる機能強化事業**

・DMO会員向けの研修に力をいれ、インバウンド客に対するおもてなしスキルアップを図った。  
 ・外部人材等の活用：新商品開発6件、香港への新規輸出2商品などの成果があった。また、香港飲食店での八代フェアでは、少量発注に対応する仕組みを試行するとともに、フェア期間中はブロガーをはじめとするメディア関係者に食を通して八代を紹介することができた。

**②大型クルーズ船等インバウンド事業**

・平成28年度からスタートした「きびっとツアー」は、熊本市内からのリピーターが増え、親子での参加が増えている。  
 ・昨年度日奈久温泉街を対象に実施した景観整備エリアを今年度は、本町商店街に拡充して実施。景観整備を地域自らで行うことで、美しい景観や快適な空間を創出させるだけでなく、まちに対する住民の関心が高まった。  
 ・外国人受入環境整備事業として民間主導による多言語標記が推進できた。

**③八代市・氷川町・芦北町ブランド事業**

・3市町の観光素材をデータベース化や地域の食材を用いた商品開発を地元の高校や大学と実施し、地域の企業と連携することで地域ブランドの推進を図った。  
 ・地域のPR動画やパンフレットを作成し、イベントでの配信やインターネットを通じて世界中に情報配信を行った。  
 ・地域の飲食事業者にしトラス関連モニターツアーに参加してもらい、圏域には、日本一の柑橘類があることや、魅力が詰まった地域であることを地元事業者の人に知ってもらい誇りに思ってもらうことに力を入れた。また、講演会・意見交換会も実施し認知度向上を図った。  
 ・イオンフードアルチザン活動：八代港を利用して香港向けに晩白柚を3020個輸出。現地では行政、生産者等との連携によるプロモーション活動を通して、晩白柚及び産地である八代を紹介することができた。

**④フードバレー流通推進事業**

・台湾プロモーション：FOOD TAIPEI 2018への八代ブース出展によって、約110件の商談・見積り依頼があり、2件が成約。台湾基隆市でのフェアにおいては、物産出展者による販売・商談と併せて来場者を対象とした観光アンケートの実施により、データ収集・分析ができた。  
 ・八代産農林水産物等PR事業：見本市・商談会等出展を通して八代産品を紹介し、取引につなげる市内事業者の取組みを支援することができた。  
 ・リーファーコンテナ利用支援：八代港からの青果物(晩白柚)の輸出につながった。

**【課題】**

**◆観光関連**

・きびっとツアーは、一部交付金を充てているため、ツアー代を安く設定して募集ができるが、参加人数が少ない場合は赤字が見込まれる。将来的に自立する必要があるため、近い時期に交付金を入れないツアー造成を行なう必要がある。  
 ・全国的にクルーズ船の受入れ港が増えたことや八代港周辺に人気の港が増えたことで、八代港への海外大型クルーズ船寄港数が大幅に減少した。このことにより、観光入込客数も大幅に減少した。今後の寄港数の増加に向け誘致活動が必要。また、外国人観光客に向けた知名度及び満足度の向上を図りFIT客の増加を目指す必要がある。  
 ・外国人宿泊についても減少してしまった。インバウンド宿泊対策が急務である。

**◆フードバレー関連**

・新商品開発や販路開拓・拡大に取り組む事業者が固定化しつつある。  
 ・各事業者が行っている事業内容や取り扱い商品等の情報が共有されておらず、事業者間の連携が不足している。  
 ・既存の取引が継続されることに加えて、新たな販路獲得に向けた取組みが必要である。

■外部検証(外部委員からの意見等)

11 事業の評価	《R1.6予定: やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》
12 本事業を評価する意見	《R1.6予定: やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》
13 本事業の良くなかった点・改善策等の意見	《R1.6予定: やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》

■議会による検証

14 議会による検証(意見等)	《R1.7予定: 八代市議会経済企業委員会においてご意見を伺います》
-----------------	------------------------------------

■実績値等を踏まえた事業の今後の方針について

15 今後の方針	<p><b>①DMOやつしろ機能強化事業</b> DMOやつしろを担う専門的人材や後継人材の育成、観光地経営に必要なマーケティング等の基礎調査を実施するとともに、観光客に対応するためのガイドやツアー造成の一役を担うランドオペレーター(旅行中の案内や交通手段の手配を行う者)等の養成を行う。また、訪日外国人への対応を行うための通訳強化を引き続き行う。</p> <p><b>②大型クルーズ船等インバウンド事業</b> 八代城跡周辺や藩湯である日奈久温泉を中心に、八代ならではの和のまち並み空間整備を行うとともに、平成29・30年度に開発した体験型観光を販売するため、WEB予約及びカード決済システムPRを行い、体験メニューと宿泊の連携を図り宿泊増加に繋げる。また、観光客の周遊性を高めるため、市内循環バス停多言語によるガイドブックを幅広く配付することで、国内外の観光客の満足度向上を図る。さらに、イベントへの参加や買物・食事等による消費拡大を図るため、クルーズ船社や海外旅行社へのツアー造成提案とガイド通訳の強化を行う。</p> <p><b>③八代市・氷川町・芦北町ブランド事業(シトラス観光圏推進)</b> 「インバウンド」と「国内観光」の両輪による観光振興を図るためには、3市町特徴である「シトラス」のイメージを定着させなければならない。今後も積極的なPR活動を行っていく。特に情報発信の基盤となる圏域住民の意識を向上させるため、WEBやメディアとの連携を図りながら、県外や都市圏広くはアジア圏など広く情報が発信できるようなシステムの構築に取り組んでいく。 また、観光客の誘客やリピーターの確保できるよう、多くある観光資源を活かし、圏域の共通の特徴である柑橘(シトラス)を生かした「食」・「歴史」・「文化」・「自然」をイメージさせる商品の造成を行う。今年度制作したパンフレットや動画等のツールを活かして観光圏のPRを実施し関係各所と連携をとりながら事業を活発化させる。</p> <p><b>④フードバレー関連</b> ・引き続きセミナーやワークショップの実施に取り組むと共に、成功事例を積み上げ、広くPRすることで、生産者や事業者の意欲喚起を図る。 ・アドバイザーによる個別相談や事業者訪問等を通して、商品開発や販路開拓・拡大の取組みを支援する。 ・市内事業者のマッチングの場を提供することで、事業者間の連携強化を図る。 ・見本市出展やフェア開催、バイヤー招聘等を通して、商談機会を提供し、新規販路獲得を目指す。 ・国内外の販路獲得に向けて、生産者団体や事業者、アドバイザー等と連携した営業活動を行う。</p>
16 令和元年度の取組概要	<p><b>①DMOやつしろ機能強化事業 29,286千円</b> DMOやつしろの成長と自立に向け、地域まちづくりのコーディネート力、マネジメント力、組織・財務管理に富んだ人材を登用し、クルーズ船商社等へのニーズ対応等観光地経営を着実に確立するための組織力を強化するとともに、観光商品の差別化とプロモーション強化のためのマーケティングを実施する。また、農産物の販路拡大を目指し、専門アドバイザーによるコーディネートやセミナー・ワークショップ開催等による意欲喚起、マッチング機会の提供等に取り組む。加えて、地元専門学校との連携により、外国人観光客への更なる工夫と改善を探る。 <b>【実施主体:八代市・DMOやつしろ】</b> ・専門人材の活用(まちづくり専門人材、6次化・流通・海外アドバイザー、海外展開サポート(セミナー・ワークショップ開催、バイヤー招聘、香港飲食店八代フェア開催等)) <b>【実施主体:DMOやつしろ】</b> ・観光専門人材の育成教育システム(高校・短大等との連携) ・差別化、プロモーション</p>



16 令和元年度の  
取組概要

**②大型クルーズ船等インバウンド事業(ソフト事業) 47,614千円**

重点エリアである、八代城址周辺・日奈久温泉街における官民一体となった歴史的文化的なまち並みの整備を行うとともに、地元の受入体制整備を図る。完了。また、国内における観光フード都市としての認知度を確立させる。併せて、地域の底上げのためDMO会員による事業への支援を実施する。

【実施主体:DMOやつしろ】

- ・八代城周辺、妙見宮周辺(運営支援)
- ・既存ブランド強化(宿泊するための仕掛けづくり:タクシー・レンタカー委託等)
- ・インバウンド対策(県内プレミアムツアー、周遊バス運行、国内外プロモーション、ファミトリップ)
- ・地域資源の開発、商品化支援(体験観光商品の開発助成)

【実施主体:八代市】

- ・スポーツツーリズム推進事業(国際スポーツイベントや東京オリンピックに向けた合宿等の招致活動)

**③大型クルーズ船等インバウンド事業(ハード事業) 10,000千円**

・城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業

【実施主体:DMOやつしろ】

重点エリアにおける和のまち並みに整備する民間への設備補助(八代城跡周辺における整備)

**④八代市・氷川町・芦北町ブランド事業 16,434千円 (うち八代市9,277千円)**

戦略プランに基づくPR事業を実施するとともに、道の駅を活用した体験プログラムや通年イベントを開催。また、熊本県で女子ハンドボール世界選手権及びラグビーワールドカップ開催が開催されるのに合わせて、観光・物産に関する情報発信を強化する。

【実施主体:シトラス観光圏推進協議会】

- ・海外等への映像発信(SNS等)

【実施主体:熊本県やつしろ晩白柚ブランド推進協議会】

- ・イオンフードアルチザン活動(イオン香港での観光フード展)

【事業主体:芦北町】

- ・芦北産農林水産物等PR事業(芦北フェア等食のイベント開催)
- ・観光商品造成事業(うたせ船を柱とした観光商品の造成)

**⑤フードバレー流通推進事業 13,647千円**

国内外での販路開拓・拡大、商品開発等を推進するため、物産展や展示会、商談会への出展等に取り組む事業者等への支援を行う。また、海外展開については、台湾での活動を軸に基隆市での観光フード展の開催をはじめ、食品見本市への出展、料理教室の実施など、販路開拓や産地としての知名度向上による観光客の誘致に取り組む。

【実施主体:八代市】

- ・台湾プロモーション事業(台湾での認知度向上、販路開拓を目指す観光フード展の開催及び見本市への出展、飲食店等への食材提案を目的とした料理教室の実施)
- ・八代産農林水産物等PR事業補助(国内外での八代産品の認知度向上、販路開拓に取り組む事業者等の支援)
- ・リーファーコンテナ利用支援(八代港利用による農林水産物等の輸出促進を目的とした補助)

## ■事業概要・内部検証

1 事業名	八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業【事業期間：H28～R2年度】
2 総合戦略での主な位置付け	<p>基本目標1：魅力産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やっしろ”</p> <p>2. 多彩な地域産業を支える</p> <p>(2)「人材」確保・育成・支援</p>
3 事業の背景・目的	<p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八代市は、全国と比して15歳前後の流入が多く、周辺市町村からの進学先としての受け皿となっている一方、18～20歳前後の転出が非常に多い。氷川町・芦北町も、八代市同様、若年者の流出が非常に多い。</li> <li>・八代市と氷川町・芦北町は隣接していることから通学・通勤面でも結びつきが強い地域であり、定住自立圏形成協定を締結し圏域全体の定住促進に向けて連携・協力を進めているところである。</li> <li>・3市町とも若年者の流出が顕著である一方、卒業後の進路に関するアンケートでは、各市町への定住を望む学生が5～6割おり、非常に高い結果であった。また、氷川町・芦北町においては、求職者の5割以上は町内に希望する職種がないと回答している。</li> <li>・3市町の企業からは、若年者の雇用環境が年々厳しさを増すことへの不安感が広がっており、将来的な経営の持続性が危ぶまれている。一方で、教育機関からは市内企業の情報が学生に伝わらないとの声も聞かれており、実際には企業からの求人が出されているにも関わらず、若年者にとっては「地元就職先がない」との印象を与えてしまっている状況である。</li> <li>・八代圏域でも多くの企業がインターンシップの受入を行っているが、学生にとっては単に就業体験を行う場所、企業にとっては地域貢献のための取組となっており、両者にとってメリットが非常に少ない実情となっている。</li> </ul> <p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的なインターンシップの取組を通じて企業の魅力を直接的に学生へ伝える手段・場所をつくることで学生が域内企業を知る機会を創出する。</li> <li>・企業の経営課題解決にインターンシップを活用するなどし、域内企業の抱える人材不足や経営的な課題の解消を図る。</li> <li>・これらの取組みにあたっては、3市町のうち大多数の企業が立地する八代市が主となってインターンの仕組みを構築し、若年者雇用のダムとなり、八代圏域内外の学生の域内定着を図るとともに、氷川町・芦北町とも連携しながら、移住定住を促進するための側面的支援を実施することで、地域の仕事に希望を持ち、圏域で生活していきたいという若者を増やすことを目指す。</li> </ul>
4 事業の概要 (H28～R2年度)	<p>①企業と若者との交流拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展開1：インターンシップを通じた企業と学生との交流を促進。</li> <li>・展開2：学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート(県内大学・高専等との連携)</li> <li>・展開3：UIJターン者の地元就職のための相談窓口を設け、域内企業とのマッチングを支援(地元商工会議所・商工会等との連携)。</li> <li>・展開4：当該拠点を活用した地域内雇用及び創業の促進にかかる支援</li> </ul> <p>②インターンシップの取組を通じて活性化する企業活動・若者の集積を産業振興や定住促進へ繋げるための側面支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住定住促進事業(首都圏等で開催される移住定住フェア等への参加、情報発信等。)</li> </ul> <p style="text-align: right;">他</p>

<p>5 交付金を充当する経費内容 (H30年度計画)</p>	<p><b>①企業と若者の交流拠点整備</b>  <b>■ツナガルインターンシップ事業</b> 25,931千円(うち八代市22,023千円)                  八代圏域雇用促進センターへの委託事業として実施。                  芦北町・氷川町がインターンシップ事業に参画し、拠点の事業活動のエリア拡大。事業活動エリア拡大に伴い、圏域企業及び学生の対象者の掘り起こしを行う。拠点の自立化に向け、収益性及び域内企業の認知度の向上を目的に、企業情報紹介冊子の掲載企業及び配布エリア拡大及びインターンシップ専用アプリの普及。インターンシップの先進団体等と連携し、域内外の学生と域内企業をマッチングする実践型インターンシップを創設。                  UIターン者の地元就職のための相談窓口を設け、域内企業とのマッチングをスタート。                  域内企業と学生を対象にした業種別情報交換会の充実。                  域内企業を対象とした、インターンシップ導入にかかる各種セミナーの拡大。                  学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート。</p> <p><b>②企業の成長力強化支援</b>  <b>■未来チャレンジ企業創出支援事業</b> 3,245千円                  新拠点スタッフ等を介してコーディネートした今後成長が期待される企業をチャレンジ企業として認定し、大学・高専等との連携を含む開発案件を支援。市の認定を受けた将来性のある企業に対し、専門のアドバイザーを配置することにより大学等の研究機関との連携を促進するとともに、経営力強化を図ることによって、学生の就職先候補となる企業を育成する。</p> <p><b>③人口流出防止・人口流入増大に係る企業人材確保支援</b>  <b>■ライフプランセミナー事業</b> 3,753千円                  若年者を対象としたライフプランセミナーの開催等により八代市で暮らし、働くことを考える機会を創出する。</p> <p><b>④定住自立圏構想による広域連携事業</b>  <b>■移住定住促進事業</b> 814千円(うち八代市422千円)                  首都圏等で開催される移住定住フェア等において、圏域の魅力や移住支援策を対外的に発信すると共に、インターンシップ事業との連携により、具体的な域内企業情報などを紹介することで移住者の増加に結びつける。</p>
---------------------------------	---

<p>6 平成30年度実績額</p>	<p style="text-align: right;">29,215 (千円)</p>
--------------------	---

7 本事業における重要業績評価指標	指標名	事業開始時点	H28	H29	H30	R1	R2
	高校・高専・短大卒業生等の八代圏域内企業への就職者数(人)	目標値	141	141	144	162	196
	実績値	141	140	143	158	/	/
18～22歳の若年者の八代圏域への定着率(%)	目標値	91	91	91	92	93	94
	実績値	91	89	86	85	/	/
本事業による、インターンシップ参加学生数(人)	目標値	0	0	53	164	308	485
	実績値	0	0	43	205	/	/

<p>8 事業実績</p>	<p><b>①企業と若者の交流拠点整備 22,023千円</b>  <b>■短期及び中・長期インターンシップのマッチング:</b>参加人数205人、受入事業所81社                  圏域内の大学1校、高校4高校とマッチング。さらに次年度のマッチングに向け、実績校以外の学校とマッチング調整を実施。  <b>■企業説明会の開催(8月、10月):</b>計2回 企業延べ34社、来場者延べ130名                  求職者及びその家族等を対象に、企業ごとにブースを設け、集客が多いショッピングモールなどを活用し実施。  <b>■企業向けセミナーの実施(5月、6月、3月):</b>計3回 延べ76名参加  <b>■企業のインターンシップ紹介冊子vol.1～3作成(各5,000冊)</b></p> <p><b>②企業の成長力強化支援 3,245千円</b>  <b>■八代市未来チャレンジ企業創出支援コーディネータを1名設置し、支援を実施。</b>                  企業の技術的課題の抽出及び課題解決に向けた支援:4社                  産学官ネットワークを活用した新たな技術・商品開発及び販路開拓支援:4社                  事業化に必要な県内外の公設試験研究機関との連携等:3社</p> <p><b>③人口流出防止・人口流入増大に係る企業人材確保支援 3,715千円</b>  <b>■ライフプランセミナー事業</b>                  高校生による地域研究及び成果発表(やつしろ学生ラボ)                  研究会 全5回 研究生13名                  成果発表会(シンポジウム) 研究生10名 観覧者 208名                  学生ラボ冊子「8DAYS」作成・配布(6,000部)</p> <p><b>④定住自立圏構想による広域連携事業 231千円</b>  <b>■移住定住促進事業</b>                  移住者交流ネットワークづくり事業                  i 本市に移住した人のための交流会開催等                  ・はじめてのやつしろ暮らし相談会:1回                  ・移住定住促進に取り組む民間団体が実施する移住交流カフェへの支援(転入者等に向けた情報紙や相談会での周知等)                  ii 熊本県移住相談会やふるさと回帰フェアへの参加                  ・東京等で開催される移住定住フェア等への参加:6回:本市への相談者17人</p>								
<p>9 事業の地方創生への効果 (凡例は内閣府調査を準用)</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="405 1265 603 1361"></td> <td data-bbox="603 1265 1471 1361"> <p>①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 1361 603 1458"> <p>○</p> </td> <td data-bbox="603 1361 1471 1458"> <p>②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 1458 603 1554"></td> <td data-bbox="603 1458 1471 1554"> <p>③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取り組みが前進・改善したとみなせる場合)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 1554 603 1653"></td> <td data-bbox="603 1554 1471 1653"> <p>④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)</p> </td> </tr> </table>		<p>①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)</p>	<p>○</p>	<p>②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p>		<p>③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取り組みが前進・改善したとみなせる場合)</p>		<p>④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)</p>
	<p>①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)</p>								
<p>○</p>	<p>②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p>								
	<p>③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取り組みが前進・改善したとみなせる場合)</p>								
	<p>④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)</p>								

## 【成果】

## ①企業と若者の交流拠点整備

前年度に事業拡大に向け、市内学生を対象とした取り組みを実施したことから、本年度はインターンシップの受入側となる企業を対象にインターンシップへの理解を深めるセミナーや市民向け企業説明会等を実施した影響もあり、重要業績評価指標でもあるインターンシップ参加学生数は目標値を達成。今後さらに②企業の成長力強化支援と関連づけ、若者に魅力ある企業を育てていくことで、地元企業への就職及び圏域内への定住に繋がるものと考えている。

## ②企業の成長力強化支援

「未来チャレンジ企業」として認定を受けた各企業の問題点に対し、コーディネーターの知見を活かした、適切な助言を行うとともに、知的財産の有効活用を図るために、関係機関との間を取り持つなど、行政職員では支援が難しい部分についても、支援が行き届くようになった。また、関連の補助金申請に関しても、申請前から、申請内容に関する相談を受けるとともに、補助事業に取り組んでいる期間中も伴奏型の支援を行うことで、より効果が高まる取り組みになったと考えている。

## ③人口流出防止・人口流入増大に係る企業人材確保支援

「やつしろ学生ラボ」に参加した研究生が、企業やUIターン者へのインタビューやグループディスカッションに能動的に取り組むことを通じて、市内企業やまちの魅力を再発見し、地元定着志向が強くなる傾向が見られた。

## ④定住自立圏構想による広域連携事業

- i 本市に移住した人のための交流会開催等  
民間団体との共同開催により継続実施している。移住希望者、近隣住民共に参加実績があり、交流が行われている。
- ii 熊本県移住相談会やふるさと回帰フェアへの参加  
東京で開催された移住相談会等でのPRをきっかけに、1組6名の移住と2組4名の八代来訪があった。

## 【課題】

## ①企業と若者の交流拠点整備

現在マッチングができていないインターンシップは依然として、本計画で目指している「企業の経営課題解決につながる実践的なインターンシップ」とは言い難く、そのモデル構築が急務であることに加え、交付金の期間終了後も自走できるような収益性の確保に目途をつける必要がある。

## ②企業の成長力強化支援

コーディネーターが1人であるため、物理的、時間的な理由で支援できる企業数に限界がある。誰にでも委託できる業務ではないため、安易に増員することもできない。

## ③人口流出防止・人口流入増大に係る起業人材確保支援

研究生の数が少ないため、カリキュラムをブラッシュアップするなど、研究生として参加したくなる仕組みを考える。また、研究成果の発表を成果発表会という形にとらわれず、より効果的に広く浸透するような方法を考える必要がある。

## ④定住自立圏構想による広域連携事業

## ■移住者交流ネットワークづくり事業

- i 本市に移住した人のための交流会開催等  
相談実績のない市内移住者向け相談会は廃止する。  
民間団体が実施する移住交流カフェが継続的に行われるよう、引き続き活動支援を行う。
- ii 熊本県移住相談会やふるさと回帰フェアへの参加  
八代市への転入実績へと繋がった。相談会1回だけの対応で成果を得たものではないので、相談会以後のフォロー等についても手厚く実施していく必要がある。また、八代市だけで提案ができないようなケースについては、定住自立圏である氷川町・芦北町にも相談し、対応することとした。

## ■外部検証(外部委員からの意見等)

11 事業の評価	《R1.6予定:やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》
12 本事業を評価する意見	《R1.6予定:やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》
13 本事業の良くなかった点・改善策等の意見	《R1.6予定:やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》

## ■議会による検証

14 議会による検証(意見等)	《R1.7予定:八代市議会経済企業委員会においてご意見を伺います》
-----------------	-----------------------------------

■実績値等を踏まえた事業の今後の方針について

15 今後の方針	<p>①企業と若者の交流拠点整備 令和元年度は課題解決型インターンシップのモデルを試行し、これまで実績が低迷している中長期インターンシップにつなげるとともに、拠点の自走に向けた収益確保のため、有料サービスの構築、有料職業紹介事業の認可取得の検討を進めていく。</p> <p>②企業の成長力強化支援 コーディネータの強みを活かし、認定企業への重点的な支援を継続していく。</p> <p>③人口流出防止・人口流入増大に係る起業人材確保支援 地域で働き、生活したい若者を増やすため、地域を知るだけでなく、地域の課題を洗い出し、実現可能な対策の提案へとつながるような仕組みを作る。</p> <p>④定住自立圏構想による広域連携事業 ■移住者交流ネットワークづくり事業 i 本市に移住した人のための交流会開催等 民間団体が実施する移住交流カフェが継続的に行われるよう、引き続き活動支援を行うほか、移住者交流や移住受入等の体制強化に引き続き努める。 ii 熊本県移住相談会やふるさと回帰フェアへの参加 地方企業への就労を希望する若者を主なターゲットとしながら、インターンシップ等の移住支援策を提示し、移住相談者が移住後の生活をイメージできるような情報の提供に努める。また、定住自立圏(氷川町・芦北町)で連携し、仕事、住まい、受け入れ体制等の情報を共有し、移住希望者のニーズに対応していく。</p>
16 令和元年度の取組概要	<p>①企業と若者の交流拠点整備 ■ツナガルインターンシップ事業 22,482千円(うち八代市17,515千円) 八代圏域雇用促進センターへの委託事業として実施。 拠点の自立化に向け、委託料の削減と収益性向上のため、企業情報紹介冊子やインターンシップ専用アプリの活用による企業PR策の拡大。 域外から長期実践型インターンシップを受入を拡大するため、各地域(東京・福岡・熊本等)の先進団体との連携強化。 域内企業を対象とした、インターンシップ導入にかかる各種セミナーの開催。 UIターン者の地元就職のための相談窓口による域内企業とのマッチングを支援とともに、企業情報を蓄積。 学生と企業による新技術・新製品開発等をコーディネートするとともに、成功事例をPRすることにより、取組を活性化させる。</p> <p>②企業の成長力強化支援 ■未来チャレンジ企業創出支援事業 3,677千円 新拠点スタッフ等を介してコーディネートした今後成長が期待される企業を未来チャレンジ企業として認定し、大学・高専等との連携を含む開発案件を支援。市の認定を受けた将来性のある企業に対し、専門のアドバイザーを配置することにより大学等の研究機関や県内外の企業との連携を促進するとともに、経営力強化を図ることによって、学生の就職先候補となる企業を育成する。</p>

<p>16 令和元年度の取組概要</p>	<p><b>③人口流出防止・人口流入増大に係る企業人材確保支援</b></p> <p>■ICTビジネス活性化事業 熊本県補助金を活用予定  首都圏企業の地方サテライトオフィス開設を促していくため、八代市内にサテライトオフィスの開設を見込んでいる企業と連携し、管内での有効求人倍率が他の職種と比べて低い事務的職業を希望する人材が働くことができる場の創出に向けて市内中心市街地へのオフィス系企業の誘致や学生等との創業支援を展開する。  具体的には、本市の誘致ターゲットを明確にするための誘致ビジョンの策定、マッチングサイトの制作、必要なスキルを持った人材の把握等を新拠点スタッフの保有する情報も活用しながら実施する。</p> <p>■ライフプランセミナー事業 3,201千円  若者を対象としたライフプランセミナーの開催等により八代市で暮らし、働くことを考える機会を創出する。</p> <p><b>④定住自立圏構想による広域連携事業】</b></p> <p>■移住定住促進事業 1,043千円(うち八代市369千円)  首都圏等で開催される移住定住フェア等において、圏域の魅力や移住支援策を対外的に発信すると共に、インターンシップ事業との連携により、具体的な域内企業情報などを紹介することで移住者の増加に結びつける。</p>
----------------------	--



## ■事業概要・内部検証

1 事業名	コミュニティビジネスによるしごと創生・地域活性化プロジェクト【事業期間：H28～29年度】
2 総合戦略での主な位置付け	基本目標2: 人をひきつけ、人が集う、活気ある“やつしろ” 1. 交流人口の拡大 (1) 地域資源を活かした交流拡大の推進
3 事業の背景・目的	<p><b>【背景】</b>          広域交流センター「さかもと館」(道の駅坂本)は、球磨川水系の文化及び情報の拠点として、交流促進による地域活性化と産業及び商工観光振興を目的とした施設である。国道219号線沿いにあり交通アクセスも良く、日本初のダム撤去工事により注目を集める県営荒瀬ダムの下流約400mに位置しているため、ダム撤去工事の見学者をはじめ市外からも多くの観光客が訪れ、地域の物産振興、情報発信、交流の拠点となっている。しかし、集客・収益とも横ばい状態にあるため、市内でも産業の衰退や人口流出が著しい本地域においては、平成30年3月のダム撤去後も、さらに多くの観光客に訪れてもらい続けることが課題となっている。加えて、当該施設には物産施設とレストランがあるものの、地域住民と市外から訪れる方々との交流拠点となるようなスペースがなく、観光客の獲得に向けた事業展開にも支障をきたしている状況にある。</p> <p>一方、地域においては、ダム撤去に伴う清流・球磨川の再生など新たな観光資源も生まれつつあり、この好機を捉えて、八代市坂本町の住民全員が構成員となる坂本住民自治協議会を中心に、球磨川流域の豊かな大自然や地域の山の幸・川の幸を活かした体験型観光事業(収穫体験等の農漁業体験、鮎やな食堂や郷土料理体験等の食体験、川遊び体験等の自然体験)を展開するコミュニティビジネス(球磨川再生シルバー事業)の取り組みを推進しているところである。</p> <p><b>【目的】</b>          施設の交流促進機能の向上を図るため、交流拡大のためのイベント開催や体験型観光事業の拠点場所として、また地域の食文化の発信拠点としての施設整備を行うことで、地域経済の活性化や雇用の創出に向けた取り組みを推進する。更に、これらの取り組みにより坂本町の認知度向上を図り、新たな観光客を獲得することで交流人口を拡大し、地域の賑わいと活力の醸成に取り組む。</p>
4 事業の概要 (H28～29年度)	<p>本事業では、地域に雇用を創出し、活力と賑わいを取り戻すことを目的に、住民自身が中心となって取り組むコミュニティビジネスの実施にあたり、その活動拠点として以下の事業を実施する。</p> <p>なお、コミュニティビジネスの円滑な事業推進のため、坂本住民自治協議会のコミュニティビジネス部門を法人化する予定である。</p> <p><b>○イベント交流施設の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域交流センター「さかもと館」敷地内にイベント交流施設を増築する。</li> <li>・整備するイベント交流施設は、多目的交流スペースのほか、鮎やな食堂や郷土料理体験に活用するため厨房を整備する。</li> <li>・併せて、効果促進事業として、コミュニティビジネスの取組みに直接必要となる備品(厨房設備、テーブル、椅子等)を整備する。</li> </ul>
5 交付金を充当する経費内容 (H29年度計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>施設整備 56,730千円</b>              広域交流センター「さかもと館」敷地内にイベント交流施設を増築する。鮎やな食堂や、郷土料理体験に活用するため、厨房も整備する。</li> <li>・<b>備品購入 1,000千円</b>              鮎やな食堂や、郷土料理体験へ活用する為に備品(厨房設備・その他テーブル椅子等)を購入する。</li> </ul>

6 平成29年度実績額	56,681 (千円)							
7 本事業における重要業績評価指標	指標名		事業開始 時点	H28	H29	H30	R1	R2
	坂本住民自治協議会 のコミュニティビ ジネスにおける収 入額(千円)	目標値	0	470	19,745	29,260	30,074	30,476
		実績値	0	303	14,634	16,117	/	/
	坂本住民自治協議会 のコミュニティビ ジネスにおける来 客者数(人)	目標値	0	300	9,130	13,140	13,290	13,365
		実績値	0	99	7,386	7,497	/	/
	坂本住民自治協議会 のコミュニティビ ジネスにおける雇 用創出数(人)	目標値	0	0	5	8	10	11
実績値		0	0	10	10	/	/	
8 事業実績	<p>○イベント交流施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域交流センターさかもと館敷地内にイベント交流施設を増築した。(イベント室114.80㎡、厨房43.20㎡、ピロティ24.00㎡ 合計182.00㎡)</li> <li>・効果促進事業として、厨房設備を整備した。(冷凍冷蔵庫、製氷機)</li> </ul>							
9 事業の地方創生への効果 (凡例は内閣府調査を 準用)			①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)					
			②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)					
	○	③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取り組みが前進・改善したとみなせる場合)						
			④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)					
10 成果・課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント交流施設の整備により、収入は増加した。 また、地元主体での雇用ができ、一定の効果が見られた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行なわれているコミュニティビジネスは、住民自治協議会(一般社団法人さかもとの「食処さかもと鮎やな」)がメインであり、実施期間が限定されてしまうため、効果も限られる。</li> </ul>							

■外部検証(外部委員からの意見等)

11 事業の評価	《R1.6予定:やっしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》
12 本事業を評価する意見	《R1.6予定:やっしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》
13 本事業の良くなかった点・改善策等の意見	《R1.6予定:やっしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議委員よりご意見を伺います》

■議会による検証

14 議会による検証(意見等)	《R1.7予定:八代市議会経済企業委員会においてご意見を伺います》
-----------------	-----------------------------------

■実績値等を踏まえた事業の今後の方針について

15 今後の方針	<p>・イベント交流施設の整備により、収入の増加、地元雇用の創出には効果が現れている。</p> <p>今後もPR活動を行い、広範囲からの集客が出来るように支援する。</p> <p>・期間限定の利用ではなく、年間を通して施設の稼働率を上げ、集客・収入の増加が見込めるように坂本住民自治協議会等へ支援を行なう。</p>
----------	---